

いわて助産師職能通信

助産師職能委員会では、今年度も皆さまからのご協力をいただきながら、岩手県内の助産師がその専門性を発揮し、安心・安全で満足する出産の提供と助産ケアの質向上をめざした活動とその支援を行ってまいりました。助産師が専門性を発揮できる環境は厳しさを増す一方ではありますが、初めて岩手県から「助産師活躍推進事業」の委託を受けることとなりました。子どもを産み育てるときの一番の応援団として、私たち助産師の力が期待されています。次年度は「岩手県版 院内助産開設推進ガイドブック（仮称）」をもとに妊産婦の安心・安全を守ることができる環境づくりに尽力いたします。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

🌸 2024 年度助産師交流会を開催しました！

2024年8月31日（土）に、『岩手県版 院内助産開設推進ガイドブック（仮称）』をともに作ろう」をテーマに開催しました。日本で院内助産に期待が寄せられている現状および助産師の専門性を安全に発揮するために、そして何よりも産婦さんと赤ちゃんへ安全を提供するために「ガイドブックを作成する必要性」を参加者と共有した後、グループワークを行いガイドブックに掲載してほしい内容等について話し合い、「県内の共通する基準」「緊急時の対応」「他科との調整例」等が上がりました。

職能交流会を通して、助産師さん一人ひとりが妊婦さん・産婦さん・褥婦さん、赤ちゃん、その家族のために助産師の専門性を発揮し、関わりたいという思いを持っていることが分かりました。そして、「いろいろな現状をもっと共有した方がいい」「院内助産を経験した方の話を聞くことができた」「支部の委員と協力することで、よりたくさんの意見を得て使いやすいガイドブックに近づけることができると感じた」「岩手県で働いている皆さんと同じ方向に向かっていける感がいい」と、岩手県の助産師が一丸となりガイドブック作成に取り組む意義を見出した時間となりました。皆さまのご協力を得て、岩手県版のガイドブック完成を目指し、活動を進めてまいります。（担当：金谷）



産婦さんと赤ちゃんの命を守る「安全」を提供する助産師から、助産師がお産に専念できる環境の必要性を発信していきましょう！

🌸 岩手県版 院内助産開設推進ガイドブック作成中

さかのぼること2008年。チーム医療の充実において院内助産・助産師外来の推進が明記され、地域における安全・安心・快適なお産の場の確保を目的に、院内助産・助産師外来事業が始まりました。今年は巳年2025年。事業開始より17年の時を経て、院内助産・助産師外来はどのくらい“推進”したのでしょうか。

私たち職能委員会ではこれまで、県内の院内助産・助産師外来推進のために段階的な活動を行ってきました。2023（令和5）年は『岩手県における母子のために地域包括ケアに関する実態調査』を、2024（令和6）年は『岩手県版 院内助産開設ガイドブック（仮称）』をともに作ろう」をテーマに意見交換を行いました。これまでの活動をもとに、今年はいよいよ『岩手県版 院内助産開設ガイドブック』の完成を目指します。

岩手県の助産師が“妊産婦の安全を守り、安心してもらえる存在”として、院内助産・助産師外来の場で、より一層の活躍ができるよう、実践的な内容のガイドブックにしたいと考えています。

へビは古代から再生や永遠の象徴とされ、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年だそうです。岩手県の院内助産・助産師外来推進のため、みんなで挑戦の一年にしていきましょう。（担当：阿部）



🌸 第 55 回日本看護学会学術集会に参加して

9月27日（金）から29日（日）の3日間、第55回日本看護学会学術集会が熊本城ホールにて『かんどちゃん』と『くまモン』が登場し、和やかな雰囲気で開催されました。高橋弘枝会長の基調講演では、「健康危機における看護の真骨頂～経験を糧に、次のステージへ～」をテーマに過去に直面した健康危機の支援を振り返り、次に起こりうる健康危機への看護職の役割を考える機会となりました。妊産婦の災害支援において、改訂版「分娩取扱施設における災害発生時の対応マニュアル作成ガイド」が紹介され、マニュアルの作成・運用・見直しを行い、平時からの備えや母乳育児支援や周産期医療の連携体制が重要だと感じました。本学術集会では700題を超える一般演題発表があり、助産師職能委員会でも2023年に調査した「A県の周産期医療施設分類別にみるアドバンス助産師®認証実態」「A県の産科関連病棟におけるユニットマネジメントの現状—周産期母子医療センターに着目して—」の2題の口演発表を行いました。一般の方々へのアドバンス助産師®の周知方法や診療所へのアプローチ方法に関する質問があった他、発表後「是非参考にしたい」等と多くの反響が寄せられました。助産師の専門性の発揮に向け、アドバンス助産師®の認証、院内助産や助産師出向システムの重要性を改めて感じ、今後の職能委員会活動につながる貴重な機会となりました。（担当：杉内）



🌸 いいお産の日inいわて 2024

11月4日（月）、アイーナ4階県民プラザにて岩手県助産師会と合同で「いいお産の日」イベントを開催しました。来場者は115名で乳幼児から60代までの幅広い年齢層で、男性の参加も39名と多く、赤ちゃんのお世話体験や妊婦ジャケット体験等を行う等、関心の高さが伺えました。岩手医大の助産師学生による紙芝居「生まれてきてくれてありがとう」も大盛況で、子どもも大人も見入っていました。助産師、歯科医師、栄養士の相談ブースもあり、熱心に質問する姿が見受けられ、疑問の解消に繋がりました。参加者からは「貴重な体験ができて良かった」「楽しかった。また来たい」「子どもがほしくなった」等の感想をいただき、好評でした。（担当：伊藤）



アドバンス助産師認証者数の推移

年	岩手県	全国
2015	55名	5,563名
2016	132名（新規77名）	11,008名（新規5,445名）
2017	132名（新規申請中止）	11,008名（新規申請中止）
2018	136名（新規4名）	12,000名（新規992名）
2019	153名（新規17名）	12,739名（新規739名）
2020	136名（新規6名 更新32名）	10,569名（新規727名 更新2,666名）
2021	118名（新規9名 更新48名 再認証2名）	8,327名（新規707名 更新2,459名 再認証37名）
2022	134名（新規11名 更新4名 再認証1名）	9,032名（新規471名 更新178名 再認証56名）
2023	140名（新規7名 更新3名）	8,951名（新規438名 更新422名 再認証51名）
2024	140名（新規4名 更新13名）	9,060名（新規461名 更新328名 再認証59名）

- * 日本助産評価機構 HP をもとに作成。
- * 認証者数は合格発表時のもの。
- * 認証後の転入出や退職等で変化しているものは対応していない。（担当：蛸崎）

発行：岩手県看護協会 助産師職能委員会
 委員長 蛸崎奈津子
 副委員長 阿部 志保
 委員 杉内 哲子 / 種子 はるみ
 伊藤 洋子 / 金谷 掌子